

子供の年よりも一年上の年のものより數に優つてゐるものが發育概評が甲であり、それに對して身長、體重の一つでも、一年下のものゝ數よりも尙少ないときには丙といはれ、其の間の數であつたなら乙即ち平均に近いものと言はれていゝのであります。この内丙のものはなるべく榮養物（牛乳や鶏卵や、バター、クリームなど）幼児の發育を促すものとし

幼児體育の話

一

今から十數年も前のことである。

そのころ私は或要件で、度々東京女高師の幼稚園に倉橋さんを、訪問する機會を持ち、従つて幼稚園はどんなものであるか、また園児の生活がどんなものであるか、を一こり見聞することが出来たのであつた。

或日のこと、倉橋さんは、私に園児の使つてゐる大きな積木を見せて、これが近頃幼稚園で使はれる積木です。抱

て一番よいのであります（を與へて發育を圖らねばいけないのであります）。

さて幼児の健康増進に就てほんの大體を述べたのであつたが、言葉の足りぬ處はそこを補つてゐたゞき、これが少しでもお子供様の健康を促す事が出来たら私の悦びとするところであります。

岩 原 拓

えて持ち運ぶのです。一人で運ぶのもあれば、二人で持ち運ぶのもあります。眞四角なもの、長方形なもの、いろいろあります。説明された。そして、そうした積木を初めて見て、びつくりしてゐる私を、振り返り乍ら、倉橋さんは、更に説明を追加された。それに依るに、子供はこの積木を、さても面白がつて積み上げるそうであり、小山もつくれば、家も作り、段々もつくれば、橋もかけるそうである。時にはその上を歩き廻つたりするそうである。そして

從來の積木は、室内のものであるが、新しい積木は、主に戸外でつかはれる。また從來の積木は、指先きを働かせるだけで、従つて筋肉も細かい筋肉を働かせることになり、それに應じて、神経中樞も細かく働くことになるのであるが、新しい積木は、腕全體こいふよりもむしろ身體全體を働かす、従つて筋肉は大きな筋肉を、またそれに應じて神経中樞も廣く働くこいふことである。そして子供、わけでも都會の子供には、細かい筋肉を働かせるよりは、大きい筋肉を働かせる方が必要だこいふ意見を以つて、その結論された。

これはほんの運動場の隅に立つての話であつたから、今では倉橋さんは、すっかり忘れて居られるかも知れない。しかし私は、それを今でも思出すほごに、よく覚えてゐる。それは以上の短時間の立話の中に、幼児の體育に就ての要點が澤山含まれてゐるからである。殊にそれが積木こいふ幼児遊戯の至寶に關聯しての話だから甚だ面白いせいでもある。

二

何しろ、幼児は花ならば、蕾の前の芽にも比すべきものである。いはゞ未熟の人間である。従つてその生活も、極めて原始的で笑ひ、泣き、遊び、喧嘩、食べる、眠る、おしつこをする、いろいろのこまが、混然と集まつてゐるに過ぎない。

その中で、最も大切なこま、換言すれば、將來の人間性を約束するに最も必要なものは、遊びである。遊びの良否、遊びの巧拙、それは將來の人間性をつくるのに、大きな關係をもつてゐるのである。更に極言すれば、幼児の教育は遊びの教育であり、遊びの指導であるこもいへる。世間では幼稚園の先生は、子供の遊び友達に過ぎないこ、悪口めいたこまをいふが、子供の遊び友達、子供の良い遊び友達こなり得た先生は最もよい先生でなければならぬこ私は信じてゐる。そして遊びの中には、智の指導、徳の指導、體の指導が、混然と入れ交つてゐるのである。遊びの中に、知を指導し徳を指導し、體を指導する指導者があつたならば、それこそ最も良い指導者こいはなければならぬこ思ふのである。

そこで、前に述べた倉橋さんの話をよく味つて見る。積木といふ知的遊戯の中に、體的指導の要素が、多分に織りこまれてゐる。いふに興味を持つ。知的指導と體的指導の一致といふことは、極めて貴重なことであつて、これを端的に云ひあらはしてゐる點は第一に注意せられるのである。第二に積木を室内より戸外へ出したといふ話。これは體的指導の見地から見、至極意義深いことである。幼児體育の最高峰は幼児に生命の母である太陽の光と大氣中の酸素を與へることである。これは最も進歩した衛生學上から切に説かれてゐることである。第三に注意すべきことは、愉快に遊ぶといふ話である。人間は遊ぶことと愉快といふことを完全に結びつけることに依つて、一つの大きな人間の完成が出来るのである。この原則が常に幼児指導の上に現はれるならば、それは體的指導の見地から計り得なく、情的指導の上にも大きな收穫があるわけである。いは、情的指導と體的指導との結合である。第四は、小筋よりは、大筋を養へといふ話である。これも幼児の體的指導を

しては、一つの根本原則である。兎角従來の教育的指導原理は、大筋使用を輕視して、小筋使用を重んじ過ぎた弊に陥つてゐる。殊に幼児に就ては、それを充分矯正して、大きな筋をゆつたりとつかはせることに、注意することが、何より肝要である。第五は神經中樞は、細く働かせるよりは、廣く働かせよといふ話である。これは筋肉の場合と同じやうに、神經中樞を狭く働かせ、それに應じて小筋肉を働かせることは、結局人間の線を細くすることにあつて、決して幼児の指導としては取るべき策ではない。成るべく神經中樞は、これを廣く働かせて、大きな筋肉をゆつたり働かせ、人間の線を太く仕上げる様に仕向けて行くことが最善の策であると思ふ。

以上、思ふがままを書きつけたに過ぎないが、幼児體育の一參考ともならば、筆者は大に満足する。